



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

23日

ドル円は株高や米長期金利の上昇を背景に110.15円まで上昇する場面があったものの、一目均衡表雲の上限が位置する110.16円がレジスタンスとして意識されると買いも一服。その後は米10年債利回りが低下に転じたことも相場の重しとなり、109.60円台まで反落した。

24日

原油や銅、鉄鉱石などコモディティ価格の上昇を背景に、資源国通貨買い・ドル売りが強まると、円に対してもドル売りが先行。米長期金利の低下もドル売りを促し、ドル円は一時109.41円まで下押しした。ただ、109.40円より下の水準には断続的に買いオーダーが観測されており、売り一巡後は109.70円台まで下げ渋った。

25日

米長期金利の上昇を手掛かりに円売り・ドル買いが先行。7月米耐久財受注額が予想を上回ったことも円売り・ドル買いを促し、ドル円は一時110.12円まで上昇した。

26日

ドル円は米金融当局者からタカ派的な発言が相次いだことで米長期金利の上昇とともに110.23円まで値を上げる場面があったものの、「アフガニスタンの首都カブールの空港周辺で爆発があり、米兵を含めて多数の死傷者が出た」との報道が伝わると、株安につれて109.90円台まで失速。翌日にジャクソンホール会議を控えて値幅は狭かったものの、上下に振れる不安定な動きとなった。

27日

複数の米金融当局者からタカ派的な発言が伝わると全般ドル買いが先行し、ドル円は一時110.27円まで値を上げた。ただ、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長がジャクソンホール会議での講演で「テーパリングは利上げ時期を示す直接的なシグナルではない」と強調すると、米長期金利の低下とともに一転ドル売りが優勢となり、109.78円まで反落した。

総括

先週のドル円は方向感の乏しい動き。週明け23日に110円台で上値の重さを確認すると、翌24日には全般にドル売り圧力が強まったことで109.41円まで反落した。その後は米金融当局者からタカ派的な発言が相次いだことを受けて買い戻しが入り、週末27日には一時110.27円まで上昇する場面も見られた。ただ、FRB議長の講演を受けて米金融緩和の早期縮小観測が後退したため、週末の引けにかけては再び109円台まで失速した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	予想値	結果
24日	15:00	火	DEM	GDP改定値	前期比	4-6月期	1.5%	1.5%	1.6%
24日	23:00	火	USD	新築住宅販売件数	前月比	7月	-6.6%	3.6%	1.0%
25日	21:30	水	USD	耐久財受注	前月比	7月	0.8%	-0.3%	-0.1%
26日	20:30	木	EUR	ECB理事会議事要旨	*	*	*	*	*
26日	21:30	木	USD	GDP改定値	前期比年率	4-6月期	6.5%	6.7%	6.6%
27日	21:30	金	USD	PCEコアデフレーター	前年比	7月	3.5%	3.6%	3.6%
27日	23:00	金	USD	パウエルFRB議長講演	*	*	*	*	*

一言コメント・・・先週発表の経済指標にマーケットの反応は薄く、アフガニстанを巡る地政学リスクの高まりなどに反応しました。アフガニстанの首都カブールの空港付近で26日に起きた連続爆弾攻撃を受けて、世界的に株価が失速し、投資家がリスク回避姿勢を強める場面がありました。

先週の注目された要人発言

23日 13:15 アーダーンNZ首相「ロックダウン措置を27日深夜まで延長する」
 24日 15:56 ホークスピーRBNZ総裁補佐「0.50%の利上げを検討した」「需要は予想以上に回復力があることを証明している」「リスクではなく、コミュニケーションの困難さから利上げを見送った」
 26日 20:45 ジョージ米カンザスシティ連銀総裁「9月会合ではテーパリング議論を反映した話し合いが行われる」「FRBは緩和策を調整し始める時期にきている」
 26日 21:39 ブラード米セントルイス連銀総裁「テーパリングを開始し、2022年第1四半期に終了すべき」
 26日 23:38 カプラン米ダラス連銀総裁「私の見通しを大きく変えるような材料は見当たらない」「9月のFOMCでテーパリング計画についてアナウンスし、10月から開始することを望む」
 27日 19:15 ポスティック米アトランタ連銀総裁「米雇用増加が引き続き堅調であれば、10月のテーパリング開始が合理的」
 27日 22:12 メスター米クリーブランド連銀総裁「私たちは実質的なさらなる進展を遂げた」「9月にテーパリングについて協議し、年末までに開始することを支持」
 27日 23:02 パウエルFRB議長「年内のテーパリング開始が適切になり得る」「テーパリングは利上げ時期を示す直接的なシグナルではない」「新型コロナウイルスデルタ株の拡大、注意深く点検」「資産購入が終了しても長期債保有は緩和的な金融環境を支える」「インフレ上昇は一時的なものである可能性」

一言コメント・・・注目のパウエルFRB議長のジャクソンホール会議での講演を前に、複数の米金融当局者からタカ派的な発言が伝わると、ドル買いが優勢となりましたが、パウエル議長の発言が伝わると、米長期金利の低下とともに一転ドル売りが優勢となりました。市場では「想定したほどタカ派的な内容ではなかった」と受け止められました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
31日	18:00	火	EUR	HICP速報値	前年比	8月	2.2%		2.7%
31日	21:30	火	CAD	GDP	前期比年率	4-6月期	5.6%		
1日	10:30	水	AUD	GDP	前期比	4-6月期	1.8%		0.5%
1日	21:15	水	USD	ADP雇用統計	前月比	8月	33.0万人		65.0万人
1日	23:00	水	USD	ISM製造業景況指数	*	8月	59.5		58.5
3日	21:30	金	USD	非農業部門雇用者数	前月比	8月	94.3万人		75.0万人
3日	23:00	金	USD	ISM非製造業景況指数	*	8月	64.1		62.0

今週の注目は・・・米雇用統計

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認下さい

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のFX124コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。